

電報番 第五三九五號

極東國際軍事裁判所

第一號

亞米利加合衆國及其他

對

荒木貞夫及其他

85 MINORA ROAD, DALKEITH,  
WESTERN AUSTRALIA

住所 西オーストラリア州ダルクース・マインラード入江番地

PENROD VANCE DEAN

予、オーストラリア軍部隊勤務ペンロドヴァンス・デーン、

宣誓シテ次の如ク陳述致シマス。

1. 予ハオーストラリア軍機銃大隊勤務ノ中尉  
MACHINE GUN BATTALION, A.I.F.

一九四二年ノ昭和十七年二月十五日シネガポールニ

於テ停虜ニナツタ。

2. 予ハスララング停虜収容所ニ運行シテ、三月十

七日ニ該所ラ一名ノオーストラリア兵伍長ト共ニ脱出シタ。

我々ハ小舟ニ乗ツテジョホール水濱ヲ横斷シ、

我々ノ直接目的地タル一小漁村ニ接近シタ時ニ

タミル人トマレー人ニ捕ヘレテ一九四二年ノ昭

Doc 5395

昭和十七年／四月六日憲兵隊ニ引渡サレタ。予ハ  
四日間憲兵隊ト共ニ過シタ。憲兵隊ハ予ガ軍事  
探偵デアルコトヲ無理ニ自狀サセヨウトシテ急  
煙草ヲ予ノ胸ヤ兩手ノ上デ燃ヤシ又ハ予ノ頭部

ヲ竹デ毆打シテ拷問シタ。

3. 予ハカラン<sup>CHANGH</sup>販客所ニ移送サレタ。該所ハデヤンギー

ニ對スルスイタ<sup>SHIRI GUERU CAMP</sup>衛舎デアツテ、此處ニ四月十七  
日迄抑留サレテ憲兵隊ニ遣送サレタ。予ハ其處

ニ四月二十四日迄居タ。其ノ間予ハ陳述書ニ署名  
スル様ニ要求サレタガ拒否シタ。四日間毆打

シタリ、急煙草ヤ電燈デ火焦セシメタリ、或ル  
時ハ電燈デ人掌不省ニオツテ轉倒シタ後ニ予ハ

英語ノ翻譯文ノ添附サレテ后ラス日本文ノ陳述  
書ヲ手交サレ更ニ拷問ノ脅迫下ニ該書ニ署名ス

ル様ニ命ゼラレタ。

予ハ該書類ノ翻譯文ヲ請求シタガ拒否サレタ、  
而シテ遂ニ該日本文書類ニ署名シタ。其後予ハ

四月二十四日ニオートラム・ロード刑務所ニ送  
ラレタ。

4. 一九四二年／昭和十七年／五月十八日ニ予ハ

シンガポール<sup>SINGAPORE</sup>ニ於テ審判サレル爲日本軍軍事裁

判所ニ進行サレタ。凡テノ訴訟手續ハ日本語デ

3.

Doc 5395

ナサレ 調書ハ 無カツタ。

予ハ 結局二年間 獨房禁錮ノ 刑ヲ 受ケタノ ダト 云

フコトヲ 知得シタ。 予ハ 其後 <sup>OUTRAM ROAD</sup> オートラムロード

刑務所ニ 移送サレ、 該所デ 一九四四年ノ 四月十

九年ノ 五月十八日迄 服役シタ。

Doc 5395

三、オートルラムロード刑務所ノ拘留人ニ  
一〇名及六名ヲ普通一房ニ一人ノ割合ナ  
リツタ。其後各房ニ二、三人ヲ送メテ  
タ。各房ニハ三名ノ程ガ残置ノ役目ヲナシ、  
但イホノ洗カ一信附シテキタ。便所用  
ベケツガアツタ、コレハ普通一通二回ニ  
ナレタ。

一室ノ毛布ガアツタ。予ガ二年間中ニ居  
タ期間ニ、華人及ヒ非日本人共二、四〇〇  
名ガ刑務所カラ出シタ。ソレ等ノ中  
人カ一〇名、英山人及ヒ重混血人カ一五  
〇名ナツタ。其外ハ英人、馬來人及ヒ  
ミル/FAMILIS/ 人等ナツタ。ソレ等ノ中  
全部ヲ約一、〇〇〇名ガ死セシタ。同期間  
中ニ日本人三、〇〇〇名ガ刑務所カラ出  
シタ、其ノ中僅カ一人名ガ死亡セシタ。刑務  
所ガ非日本人ヲ収メタクモ時々二  
三〇名モ居タ。

六、オートルラムロード/OUTRAM ROAD/刑務所ノ  
拘留人ニ驚クベキモノガアツタ。糧食ハ一日  
三食ナリ、全部ヲホネノス及ヒ水ツボイノ  
ズ<sup>1</sup>ニ<sup>2</sup>ハテイントナツタ。其ノ宿所ニハ  
一室ノ日本人幾人モ居ラヌ又同宿所ニ通



5.

PURL: <http://www.legal-tools.org/doc/37bc93/>

Doc 5395

6.

計サレルノヲ又ハ多量ノ死ニ若ク目撃シタ。  
英ノ實例ハ或ノ様ナモノデアス。

一九〇三年ノ昭和十八年ノ五月十日ニ四  
ノ中 韓 國人ガ此ノ刑場ニ到着シタ。彼等  
ハ手錠ヲ被ケラレ、彼等ガレテ死スルニ  
答サレタ。

彼等ハ身体ガ壯健デアツタ。彼等ハ六週  
後ニ終焉ニ至リテ死亡シタ。予ハ是々彼等ガ  
罪ヲ判明セシメ計サレルノヲ目撃シタ。

予ハニ名義ノ立派ナテイズ / DAVIES / ト

イフ一英 國人ガ予ガ一九〇二年ノ四月十七  
年ノ三月ニ到着シタ時ト殆ド同時ニ到着シ  
タ。彼ハ口氣ニ信ツテ八月迄ニ暹羅ノ王位  
ヲ二度ニアツタ。彼ノ唯一ノ参行方途ハ自  
國ノ前方ニ暹羅ヲ過シテアツタ。日本  
人ハイツモ停留ラレテ家ヲ建テ住ミサセ  
テ、彼ニ何一ツ手助ケセズ亦自ノ力ニテ助  
力セシメタカツタ。テイズ / DAVIES /  
十月七日ハ何ノ苦ミテ死亡シタ。彼ハ何國  
モ何國モ應計サレテ終ニト小使ヲ一杯ニ送  
ツテ死亡シタ。彼ノ死亡スル五日後ニ彼ハ  
病ヲ出ルコトガ出来ス只々ハ彼ヲ助ケ  
ルコトモ計サレタカツタ。

Dec 5395

シ・O. W. BARBER /  
イ・ダ・アリ・ユ・イ・ベ・イ・タ・ハ・毆・打・ノ・結・果・一・九・四・三・年  
／昭和十八年／二月十三日ニ死亡シタ。死亡スル少  
シ前彼ハ脚氣ト赤痢ニ罹ツテ非信ニ衰弱シテキタ。  
二月十二日ニ看守ガ彼ノ獨房ニ入ツテ來テ歩行シテ  
小便ベケツヲ運ヒ出シテ空ケル様ニ彼ニ賜ヒタ。此  
ノ時<sup>BARBER</sup>ベ・イ・タ・ハ・全ク骨ト皮ベカリニナツテキタ。彼ハ  
ベケツヲ持テ鼻ゲルコトガ出來ナカツタノデ、地上  
ヲ曳キズロウトシタ。併シ彼ハ曳キズルコトモ出來  
ズニ倒レタ。看守ハ約五分間モ彼ヲ毆打シタリ、足  
蹴リニシタ。其ノ翌朝彼ハ死亡シタ。

澳洲人<sup>ALLEN</sup>ア・レ・ン・ハ・一・九・四・三・年／昭和十八年／七月十日  
ニ死亡シタ。彼ノ死後、日本人當局ニ知ラヌマニ、  
彼ノ身体<sup>OHAGH</sup>ヲ・ヂ・ヤ・ン・ギ・ニ於テ友軍軍醫部隊員ガ看ツ  
タ。体重ハ五六ポンドデ全ク骨ベカリノ重量ダツタ。  
彼ハ死亡スル二週間ハ獨房ヲ離レルコトモ曳ハ起居  
スルコトモ出來ナカツタ。其ノ上看守ハ假ラ獨房ノ  
片隅ニ置イタノデ、<sup>ALLEN</sup>ア・レ・ン・ハ・其處迄運スルコトガ出  
來ナカツタ。予ハ何度モ何度モ彼ニ給食スルノヲ許  
シテ呉レト許可ヲ求メタガ看守ハ悉ク拒否シタ。予  
ハ彼ノ死後彼ニ着衣スル様ニ命ゼラレテ、身体ヲ見タ  
時ニ、彼ハ乾性脚氣ノ結果、全ク骨ベカリデアツタ。  
身体ハ垢ダラケテ汚物デ一杯デアツタ。

一 澳洲兵軍曹ハット<sup>HAYHURD</sup>フ・イ・ール・ド・ハ・一・九・四・三・年／昭和

Doc 5395

十八年／五月／SINGAPORE／  
ニシンガポールニ於テ逮捕サレタ。彼  
ハ三ヶ月間懲兵隊ヲ過シテカラ八月ニ此ノ刑務所ニ  
送行サレタ。一九四三年／昭和十八年／十一月ニ裁  
判サレ、軍事謀偵トシテ處刑サレルベク宣告サレタ。  
予ハ多少日本語ノ知識ヲ持ツテ居タ、サウシテ予ハ  
一九四三年／昭和十八年／十二月四日ニハットフイ  
ールドノ許ヘ送行サレテ、自分ノ爲ニ遺言ヲ作成シ  
且ツ信侶ヲ世話シテ呉レト彼ニ依頼サレタ。此等ノ  
要求ハ双方共刑務所長ニ依ツテ拒否サレタ。ハット  
フイールドハ十二月六日ニ刑務所カラ連れ去ラレタ。  
ハットフイールドヲ處刑シタ看守ハ彼ヲ予ニ自分ハ  
彼ヲブキテマノ野原ニテ處刑シタト語ツタ。  
予ガオットラム・ロードニ會ツタ唯一ノ歐亞混血人  
デアール・ニックスン婦人ハ一九四四年／昭和十九年／  
一月ニ到着シタ。彼女ハチャンキーニ於テ抑留ノ身  
デアツタ。彼女ハ懲兵隊ニ送行サレテ、何一ツ監ス  
所モ無ク、我々ト全く同シ環境下ニ抑留サレタ。彼  
女ハ予ガ一九四四年／昭和十九年／五月ニ退去シタ  
時ハ未ダニ孤獨ナ抑留所ニ居タ。  
マシノイ神父ト一人ノ歐亞混血人ノ僧侶ハ一九四三  
年／昭和十八年／ニ該刑務所ニ送行サレタ。二人共  
以前ニ懲兵隊ヲ拷問サレタ。彼等ハ該刑務所ヲ病死  
シタ。マシノイハ跪イテ祈禱スルノヲ看守ニ發見サ



Doc 5395

9.

レタ時ハキツト殴打サレタ。

／HUGH FRASER, THE COLONIAL SECRETARY, MALAYA／  
マラヤノ植民地書記官ノヒューフレイザーハ一九四

三年ノ昭和十八年ノ終末ニ一行ト共ニ到着シタ。

彼ハ到着前憲兵隊テ約四ヶ月過シタ。彼ハ定期的ニ

看守ニ殴打サレテ、予ガ退所シテカク死亡シタ。

一人ノ英國人が居タ。此ノ人ハ一九四三年ノ昭和十

八年ノ五月ニ一組ノ疥癬ニ罹ツテ、其ノ結果、背中

ガ全部腹カラ腰迄ガ開放性胎動トナツテ腹ガ潰レテ

居タ。彼ハ三ヶ月間全ク坐ルコトモ横ニナルコトモ

出来ナカッタガ、何等ノ手當モ與ヘラレズ、傷口カ

ラ出ル汚物ヲ拭フタメニ爛布ヤ布切れスヲモ與ヘラ

レナカッタ。終ニ幸運ニモ胎動ハ獨リテニ乾燥シテ

シマッタ。

Doc 5395

二名ノ中華民國婦人ガ一九四三年ノ昭和十八年  
ノ七月二十六日ニ刑務所ニ連行サレテ男子ト同様  
ナ環境ト條件下ニ抑留サレタ。一婦人ハ臨月間近  
デアツタ。彼女ハ僅カニ分娩數日前ニ移動サレタ。  
十二才ノ中華民國少年ガ母親ト一緒ニ刑務所ニ入  
ツテ來タ。母親ハ一ツノ獨房ニ容レラレ、少年ハ  
他ノ獨房ニ收容サレタ。  
少年ハ約九週間後ニ脚氣デ死亡シタ。予ハ少年ガ  
死亡シタ時ニ死体ヲ運ンダ。全身カ膨ンデ頭部ガ  
張レテキタノデ、顔面ハ明カニ人間デアルカ見分  
カ付カナカツタ。

多クノ人々ガ此ノ様ナ状態デ發狂シタ。日本側ノ  
處置法ハ發狂者ノ世話ラスルタメニ、三、四名餘  
計ニ獨房ニ入レルコトデアツタ。大抵ノ場合ニ發  
狂者ハ食事ヲ拒ンダノデ死亡シタ。發狂者ハ度々  
仲間ニ傷害ヲ與ヘタ。

一九四三年ノ昭和十八年ノ十一月ノ終末ニ到着シ  
タ陸軍少佐スミスハ訊問中憲兵隊ニ強ク挫カレテ  
居タ。食ヲ攝ルコトハ非常ニ困難デアツタ。日本  
側ノ言分ハ若シ彼ガ眞實ヲ語ツタナラバ強ク挫カ  
レズニスンダラウトイフ理由テ彼ハ刑務所中デハ  
治療ヲ拒否サレタ

Doc 5395

一九四三年／昭和十八年／ノ年末ニ刑務所當局ハ若干名ノ最重症患者ヲオートラム・ロードカラナヤンギー病院へ送還シタ。大抵ノ場合送還サレタ患者ハ顔死ノ者デアツテ該病院詰ノ檢者ハ予ニ是等ノ罹病者ハ助カル見込ハ無イト語ツタ。日本側ハオートラム・ロードニ於ケル公認死亡率ガ實際ヨリモ少數ニ見セヨウトシテ患者ヲ送還シテギタ様子デアツタ。

一九四三年／昭和十八年／九月ニ予ハ右衛門ニ大キナ腫瘍カ出來テ約一ヶ月間苦悶シタ、其ノ上横腹カ大變腫レタノテ予ハ看守ニ腫瘍ノ先端ヲ切り取ル様ニ依頼シタ。彼ハ彼ノ劍ヲ切り取ツテカラ腫ヲ出シタ。予ハ之ヲ親切ニ行爲デアルト思ツタ。刑務所ニハ加藥所ヤ又多量ノ藥品、治療器械等ヲ備ヘテ日本人衛生兵カ一名居ツタカ彼ハ予ノ治療ヲ拒ンダ。一九四二年／昭和十七年／八月ニ日本人二名カ刑務所ノ部署カラ脱走シタノデ懲罰トシテ三週間全停房ハ氣ヲ付ケー即チ胡坐ヲカイテ朝七時カラ夜分九時半迄靜坐ヲセネバナラナカツタ。日々ノ制當量ハ飯三オンス、少量ノ水一杯及岩鹽一片デアツタ。

予ハ一九四二年／昭和十七年／四月ヨリ一九四三

Doc 5395

12.

年／昭和十八年／九月ニ至ル全期間中ニ一着ノ半  
ズボンを貰ツタ。コレガ我々仲間ノ多クノ場合デ  
アツタ。

一九四三年／昭和十八年／九月ニ我々ハ一枚ノ日  
不製シャツト一組ノ半ズボンを配給サレタ。是等  
ハ日不人ノ疾病者カラ來タモノデアツタ是等ノ衣  
類ハ一月ニ一回洗濯サレタカ我々ニ贈シテ衣類ニ  
番號ヲ付ケタリ又目印ヲ付ケタリスルコトヲ許可  
シテ呉レヌノデ、俘虜ハ一人モ自分ノ衣類ヲ受領  
シタ者ハ無カツタ。大多數ノ俘虜ノ健康ヲ別ヲ觀  
察シテモ新様ナ状態デハ兼一人壯健デアリ度イト  
思ツテモ不可能ナコトデアツタ。短期間ニ全員カ  
疥癬ニ罹ツタ。

我々カ任ンテキタ獨房ノコトヲ記述スルコトハ困  
難デアル。壁ニハ血痕ヤ腫ノ汚點ガ附着シテキタ。  
人々ハ傷口ヲ乾燥サセル習慣ダツタノデ壁デ手ヲ  
フイタ。鎖狀ノ皮膚ノ塊カ片断ニ溜ツタ。

寢臺ノ敷板ニハ南京虫カ居タ。我々ハ一度モ顔ヲ  
刺ラナカツタ、又爪ハコンクリート床デ擦切ラネ  
バナラナカツタ。看守ハミナ我々ノ獨房區劃内デ  
勤務中ハ覆面シテ居タ。看守達ハ我々ノ獨房内ノ  
何物ニモ手ヲ以テ觸レルコトハ無ク僅カニ劍ヤ手



Doc 5395

13.

袋テ腐レタノミダツタ。手ノ知ル限リニ於テ我々  
ノ獨房ハ二年間ニ僅カニ二回ダケ清掃サレタ。一  
方日本人囚人ノ住ンデ居タ區劃ハキレイニ清掃サ  
レテモタ。

看守ハ皆法的絶對杜威者デアツタ。或ル晩一看守  
ハ我々が眠ラヌト云フ理由テ毆打シタモノダ。ス  
ルト次ニ勤務ニ就イタ。看守ハ眠ツテモルト云フ  
理由テ我々ヲ毆打シタモノダ。

刑務所ニハ一九四二年ノ昭和十七年ノ十月ニ開始  
シタ幾ツカノ作業隊ガアツタ。其ノ時期ニ我々仲  
間ノ若干名ハ下水清掃ニ出カケタ。一九四三年ノ  
昭和十八年五月迄ニ他ノ部隊カ編成サレテモタ。  
獨房ハ毎日檢索サレタノデ、手記ヤ日記ヲ附ケル  
コトハ出来ナカツタ。モートラム・ロード刑務所  
ハ南方方面日本軍ノ中央刑務所デアツタノデ、獨  
房カ空イテイタ時ニハ部屋主ハ死亡シタカ、或ハ  
處刑サレタカ若クハ正ニ處刑サレルカノ孰レカダ  
ツタ。

Dec 5395

予が最初ニ此ノ刑務所ニ到着シタ時ニ、予ハ周  
圍ノ開放サレタ建物内ニ六ヶ所體詰牛乳ノ容器ガ  
充滿シアキルノヲ目撃シタ。予ハ二萬乃至三萬箱  
アツタト思フ。我々ハ最初ノ月ニ少量貰ツタ。其  
後我々ハ牛乳ヲ一九四二年ノ昭和十七年ノ及一九  
四三年ノ昭和十八年ノ天長節ニ二回貰ツタ。該  
牛乳ハ刑務所内デ日本人ガ私用シタリ、訪問者へ  
ノ贈物トシア用ヒタ。牛乳ハ他ノ部隊ニハ配給サ  
レナカツタ。刑務所ニハ戦争終了迄各俘虜ニ支給  
シテモ尙充分ニ余裕アル程ノ牛乳ガアツタ。而シ  
テザイタミンBハ勿論我々ノ最大ナル必要物デア  
ツタ。

或ル時一皇族ガ一九四二年ノ昭和十七年ノ終  
リ方ニ刑務所ヲ歩カレタ、此ノ皇族ハ單ニ通廊ヲ  
歩カレタバカリデ獨房ノ中ハ見ラレナカツタ、數  
回高級將校ガ該刑務所ヲ訪問シタ。此ノ高級將校  
達ハ俘虜ノ或者ガ作業シタリ、或ハ小便バケツヲ  
空ケルタメニ選搬シアキルノヲ當然目撃シタ筈デ  
アル。コウシタ訪問ノアル前ニハ、獨房用階段ハ  
石鹼デ濡リ磨カレタ。石鹼ハ俘虜ニハ身体ヲ洗フ  
爲ニハ配給サレナカツタ。

一九四四年ノ昭和十九年ノ五月十八日ニ予ハオ

14.

Doc 5395

ートラムロード／OUTRAM ROAD／刑務所ヲ退所シテ、  
チャンギー／CHANGI／ニ送還サレテ、塔ニ入レラ  
レタ。予ハ不逃亡書式ニ署名スル様ニ要求サレテ、  
終ニ強制的ニ署名シタ。予ハソレカラ釋放サレテ  
日本軍ノ要塞ヲ掘ルタメニ將校及兵三七九名ト共  
ニブキバンヂヤン／BUKIT PANJANG／ニ行ク通駈トナ  
ツタ。濠洲軍收容所指揮官ハ作業ノ性質ニ關シテ  
該收容所主任ノ日本軍軍官ヲ訪問シテ來タ高級視  
察將校ニ對シテ抗議シタガ無効デアツタ。一九四  
五年／昭和二十年／六月ニ濠洲軍兵士ウィルソン  
／AUSTRALIAN PRIVATE WILSON／ハ充分ナル予防  
が取ラレナカツタノデ、穴ノ掘進中ニ土ガ崩壊シ  
テ死亡シタ。

作業隊ハ午前八時ニ開始シテ、毎朝四、五哩モ  
行進シタ。大概ハ人々ハ籠ヲ持ツアキナカツタ。  
或者ハ自家製ノ履襪靴ヲ下駄ヲ使用シ、他ノ者ハ  
素足デアツタ。將校達ハ收容所ヲ出ルコトモ或ハ  
作業隊ト同行スルコトモ許サレナカツタ。作業隊  
ハ普通午後六時三十分ニ歸所シタ。一九四五年／  
昭和二十年／六月頃ニハ人々ハ昼中カラ食事モセ  
ズニ、蠟燭ノ光デ山腹ニ二〇乃至三〇呎モ入ツテ  
作業ヲシテカラ夜一〇時ニ作業隊カラ歸所シ始メ  
タ。彼等ハ屢々スグ着レニナツア歸所シタ。收容

15.

Doc 5395

所内デハ灯火ハ許可サレズ又時間ガ不規則デアツ  
タノデ、夜分ニ暖イ食料ヲ供給スルコトハ極メテ  
困難ナコトガ屢々アツタ。

衣類ハ收容所内デハ大變缺乏シア居タ。一九四  
五年ノ昭和二十年ノ七月頃、中華民國民人用ノ下  
着ガ五〇着分配給サレタガ若干名ガ其ヲ着テ街路  
ヲ歩行シタノデ村民ガ非常ニ面白ガツタ。我々ハ  
收容所ニハ殆ンド醫藥品ノ貯蔵モ無カツタ。值カ  
二〇〇ヤード離レタ所ニハ醫藥品配給本部ガアツ  
タケレドモ、我々ハ何一ツ手ニ入レルコトハ出来  
ナカツタ。看守ノ殴打ガ屢々行ハレタ。全員ガ歩  
哨ニ敬禮セネバナラストイフ一規則ハシタ、カ鞭  
ツテモヨイトイフ充分ナ口實ヲ具ヘタ。

作業員ニ對スル定給ハ一日米一〇オンス、野菜  
三オンス及時々罐詰食糧ガアツタ。該罐詰ハ予ガ  
倉庫デ赤十字社救小荷物ヲ目撃シタノデ、赤十字  
社救ノ供給品ラシカツタ。罹病者ニ對スル定食糧  
ハ約三〇%減デアツタ。新様ナコトハ該收容所ノ  
約五〇%ガ罹病者デアツタノデ收容所ノ基本定給  
ニ影響シタ。

／＼ DEAN  
デー・エス・デー

／署名／



Doc 5395

17.

MAJOR LEGAL STAFF. F. E. MOSTYN

予、法務官陸軍少佐エフ・イー・モステインノ面  
前ニ於テ一九四六年ノ昭和二十一年ノ十一月二十  
一日東京ニ於テ宣誓セリ。